

(様式1)

親子の学び応援講座実践報告書

名 称	玉川第一小学校・須釜小学校「家庭教育学級」
講座開催日	令和5年10月28日(土)
会 場	玉川村立玉川第一小学校・須釜小学校
参加人数	児童との交流活動 保護者20名、児童生徒298名、職員19名、来賓30名 計367名 ゴミ(希望のカケラ)拾い活動 保護者20名、児童生徒51名、職員6名 計77名
実践活動テーマ	親子ゴミ拾い活動
テーマ設定の理由及び実践活動のねらい	児童及び保護者が、地域の道路のゴミ拾い活動を協力して行うことを通して、郷土愛や美化意識、規範意識を高める。また、「ゴジてれ Chu!ブンケン歩いてゴミ拾いの旅」に出演している鈴木文健氏をゲストに招き、活動や交流を通して、奉仕的精神を高めたりごみを減らすことの大切さを学んだりする。
講座及び実践活動内容	
【活動内容】 ゲスト：タレント 鈴木 文健 氏(出演「ゴジてれ Chu!」ブンケン歩いてゴミ拾いの旅) 1 児童との交流活動 (1) 文健さんの紹介 ・ゴミ拾いを始めたのは、FCTの方に声をかけてもらったことがきっかけです。そのとき、自分は福島県のみなさんにお世話になって今があると思い、恩返しをしたいと考えたからです。 ・ゴミを拾うことを「希望のカケラ」と呼んでいます。みんながまわりの人の笑顔のために活動することで、ぼくの理想であるみんながやさしく思いやりのある福島県になると思って「希望のカケラ」と付けました。 (2) 児童からの質問 ・ゴミ拾いをしていて、嬉しかったことは何ですか？ →「希望のカケラ」拾いをしていて毎回嬉しいことがあります。福島県のみなさんが「ガンバレー」「ありがとう」「これ飲んで」と声をかけてくれるんです。恩返しをするために始めたのに、「ありがとう」と言ってもらえて、とても嬉しいです。 ・ゴミ拾いをした後、同じ所にゴミが落ちていたら、どう思いますか？ →以前と同じ所にゴミが捨てられていることは、けっこうあります。でも、きれいにしたい。自分があきらめたら、試合終了です。きれいになると信じています。	



(3) 児童へのメッセージ

- みんなここにいる人たちは仲間ですね。後ろの人たちは保護者の方です。みんなのことを考えて元気に育てて欲しいと思っています。「ありがとう」を言ってみましょう。横の人たちは先生ですね。「ありがとう」を言いましょう。これから大人になったとき、みんなの行動が思いやりの気持ちにつながり、福島県をきれいにします。



2 ゴミ（希望のカケラ）拾い活動

(1) 出発式

- 1～5年生が6年生へ「ゴミ拾いがんばっててください」と応援の声かけをしました。6年生は「希望のカケラー！」「おー！！！」とかけ声をかけてゴミ拾い活動へ出発しました。

(2) ゴミ拾い活動

- ゴミ拾い活動は、玉川中学校から役場までの道を3コースに分かれて行いました。各コースでは道の両側のゴミを丁寧に探していました。ゴミを見つけると、テレビカメラに向かって「希望のカケラー！」とはじめは照れくさそうに言っていたのですが、文健さんに「80点！」「90点！」などと声を掛けられる度に、徐々に元気よく「希望のカケラー」と嬉しそうに声を出していました。



(3) ゴミの分別

- 保護者と児童が協力して、燃えるゴミと燃えないゴミに分別していました。活動前は「そんなにゴミは落ちてなさそうだね。」と言っていたのですが、燃えるゴミ袋3袋、燃えないゴミも3袋集まり「こんなに落ちていたんだね。」と驚くとともに、きれいになって喜んでいる様子でした。

3 参加者の方々からの声

(1) 児童

- 「希望のカケラ」拾いでは、ゴミが思っていたよりたくさんあって、びっくりしました。一緒にゴミ拾いができて嬉しかったです。
- お世話になっている地域の「希望のカケラ」拾いができて、良かったです。
- みんなと協力して「希望のカケラ」拾いができて良かったです。



(2) 保護者

- 一緒に「希望のカケラ」を拾ってみて、ゴミの多さに驚き、きれいになった喜びを感じました。子どもたちのさわやかな笑顔が良かったです。
- こういう機会がないと、子どもたちと一緒に歩いたりゴミを拾ったりできないので、地域に密着したよい活動だと思いました。文健さんも子どもたちの気持ちをギュッとつかんで、「あきらめないで」「希望を持って」などプラスの言葉がとても良かったです。